

2011年度 市民福祉講座

第1回 「自分らしい生き方を貫くために ～私たちにとっての生と死～」

講師：富安兆子（高齢社会をよくする北九州女性の会）

6 講座のメインテーマである「自分らしい生き方を貫くために」、一人ひとりが思いめぐらす生と死とは何であるのか初回にふさわしいお話でした。

現在の自分達の死生観は、権力や宗教の歴史の変遷とともにあることを学びました。先の震災で突然なくされた沢山のいのちを思い、私達が今を元気に生きていられることに深く感謝すべきなのです。誰もがいずれは迎える死の時を、悔いなく恐れず受け入れる準備を怠らぬよう、日々の生き方に目を向けていきたいものです。



第2回 「人生における信仰の意味」

（1）キリスト教における死生観・世界観

講師：泉田 昭（牧師、老人ホーム キングス・ガーデン連合理事長）

前半は先生ご自身のこと、後半はキングス・ガーデンについてお話くださいました。



幼い頃からお寺の日曜学校へ通い浄土真宗の世界に育ち、嘆異鈔にひかれ、大学でキリスト教に触れ、永遠の命を知ることができました。自分が決断せずとも神が導いてくださり、自分らしい生き方に通じ、今の自分に至っています。

信仰を持ち、長い間福祉事業に携わっています。高齢福祉施設、キングス・ガーデンは身体的介護、精神的介護（メンタルケア）、霊的介護（スピリチュアルケア）をおこなっていて、ターミナルケアでは永遠の命を生きる「天国への待合室」と位置づけています。

介護保険の適応外のメンタルケアやスピリチュアルケアは多くの牧師の無償の協力を得ることができるのが他の高齢者施設と異なるところです。信仰を持つ意味と力を知り、一度の人生を有意義に生きていच्छる先生から力強い言葉を頂きました。「過去を忘れ、上（神）をみて前に進みましょう」と。

アンケート結果から参加者は 70 歳代の方が多く、男性の参加も 70 歳代の方ばかりでした。仕事も家庭生活も一段落したのがこの年齢で、自分を振り返り自身に向き合う時なのでしょう。